

令和元年度「ストップいじめ なら子どもサミット」

奈良市教育委員会事務局
いじめ防止生徒指導課

令和2年2月1日（土）午後1時30分より、奈良市教育センター8階及び9階において、令和元年度「ストップいじめ なら子どもサミット」を開催しました。今年度で4回目の開催となる「ストップいじめ なら子どもサミット」は、「ネットいじめをなくすために私たちができること 大人ができること」をテーマに行いました。3回の事前ワーキングを経て、実施したサミット本番には、市立の全中学校の生徒代表93人が参加し、保護者や地域の方々、学校の先生方など約170人が見守る中で、いじめをなくしていくための取組について協議をしました。

子どもたちが、いじめの問題に主体的に取り組むことを目的としたこのサミットは、受付や案内、司会進行、活動報告、開会・閉会の挨拶など様々な役割を子どもたちが分担し、子どもたち自身の運営により進められました。

○開会の挨拶と激励のメッセージ

サミット参加生徒の代表者から、サミット開催の趣旨についての説明があり、『今年度で4回目となるサミットは、いじめの未然防止に向けて、私たちが今、できることは何かを考える場です。私たち自身が、先生や保護者、地域の方々と協力して、「いじめを許さない学校づくり」に取り組んでいく一歩にしたいと考えています。いじめで悩んでいる、苦しんでいる仲間を助ける力となるよう、充実したサミットにしたいと思います。』と挨拶がありました。

続いて、仲川げん奈良市長より、「いじめという一番身近であり一番大きな問題に向き合っていただき、大変嬉しく思っております。皆さんが、我が事だと思って行動してくれることが一番大きな力になると思っています。このように大きな一歩を踏み出してくれたことに心から敬意を表したいと思います。」と激励のメッセージをいただきました。



○生命のメッセージ展

当日、8階で開催しておりました、「生命のメッセージ展」主宰のNPO法人KENTOの代表、児島さんより「生命のメッセージ展は、命の尊さを伝える活動です。遺族になって思うことは、メッセンジャーの隣に誰にも立ってほしくないことです。いじめのない安心・安全な暮らしの場に変えたいので、皆さんの声を聞かせてください。」とお話をいただきました。午前のワーキングと午後のサミットの間などに、中学生や参加者が真剣に見入る姿が印象に残りました。



○これまでの活動報告

登美ヶ丘中学校の3名が『ネットいじめは時代の流れと共に、今、まさに私たちの身近で起こっています。このネットいじめをなくしていくために各学校の生徒代表が集まり、ワーキングを行ってきました。第1回目のワーキングでは「ならストップいじめ3カ条」の確認を行い、いじめは絶対に許してはいけないということを確認しました。そして、自分たちの身の周りにあるネットいじめについて意見や考えを出し合い、自分では気づけなかったことがたくさん話題に上がり、勉強になりました。第2回目のワーキングでは、いじめ相談アプリ「Stop it」のドラマ教材を視聴し、各班ごとに、いじめについての着目点を見つけ出し、ポスターセッション形式で活動した内容を交流しました。第3回目のワーキングでは、「私たちができること。」を考えました。私たち子どもだけでなく大人の皆さま

んと話し合いを行うまでの準備やネットいじめの撲滅を目指し、いじめを絶対に許さないことを確認することができた有意義な時間となりました。』と今年度の活動報告を行いました。

○ワークショップ I

ワークショップ Iでは、「ネットいじめをなくすために私たちができること 大人ができること」をテーマに子どもと大人がトークセッションを行い、「大人が知らない ネットいじめの現状」について、大人と子どもの本音を出し合いました。子どもからは「大人に相談してもややこしくなる。」「家や学校で信頼して、相談出来るような空気であったり、雰囲気・環境・関係を作っていって欲しい。」という意見が出ました。

大人からは、「反省も含めて大人自身も変わらなければならないが、子どもが歩み寄ることも大切です。」「誰も友人に対して心配をするが、自分に優しくなってほしい。そうすると誰かに相談できるようになる。」など活発な意見交流が行われました。



○ワークショップ II

トークセッションを受けて、14班に分かれ、ワークショップ IIを行いました。ファシリテーターの都南中学校の安田先生と平城東中学校の峯嶋先生が中心となり、グループワークを行いました。子どもの意見交流だけでなく、地域の方の考えを聞き、「私たちができること」について議論しました。子どもからは、実体験を基に学校での会話や家庭でのやりとりについて、具体的な話が出ていました。それに対し、大人からは年長者としてのアドバイスや意見などがあり、大いに盛り上がりました。



○奈良学園大学 教授 松井典夫先生からの講評



12月の第1回ワーキングから当日のサミットまで、全ての活動に参加していただいた松井教授から講評をいただきました。松井教授は、「私たちは、いじめを受けている人に対して、みんなで助けることが必要である。傍観者も加害者も一人になるから止められない。傍にいる人（バイスタンダー）によって、手を差し伸べることがとても大切であるということを学校の雰囲気として作っていき、複数で手を差し伸べることが重要。」などSNSいじめだけでなく、これから学校が取り組むべき具体的な方向性を示していただきました。

○終わりに



閉会にあたり、サミット参加生徒の代表者が「ネットでは、相手の顔が見えない分、深く考えなくても罪悪感なく悪口が書き込め、気軽に悪口が言え、誰が言っているかわからないから余計にネット上のやり取りは傷つく。だからこそ、『みんながお互いのことを理解しようとする』ことが大切だと思った。その輪が広がり、それぞれの中学校から辛い思いをしている人がいなくなればいいと考えた。」と閉会の挨拶と決意を語ってくれました。

このように今年度は、ネットいじめについて考え、いじめの防止に向けた意識を高めることができました。今後もサミットの参加者だけでなく、これからも継続して、皆さんと共にいじめをなくすように取り組んでいきます。